

# ひろしま県

# 高次脳機能センターだより

第11号

令和4年10月15日 発行



○当院でリハビリをされているAさんの作品。  
最終ページに、Aさんのエピソードを掲載  
しています。

## CONTENTS

### 特集

障害福祉サービス利用について……②

### 利用者のページ

村田成康様……………④

### コラム等

コロナ禍でのリハビリテーション…⑤

感染対策について……………⑤

### 関係機関ニュース

お知らせ……………⑥

スポーツ交流センター・おりづる…⑦

### 案内

診療案内等

## はじめに

広島県高次脳機能センター

センター長 近藤 啓太

日頃より高次脳機能障害者の支援にご協力いただきありがとうございます。今年度も年1回の広島県高次脳機能センターの機関紙を発刊することができました。平成18年に開設された高次脳機能センターも今年度で17年目になりました。現状当センターは主に回復期リハ病院より患者さんを紹介していただき、回復期リハを退院した脳外傷や脳卒中の高次脳機能障害を有する患者さんの地域生活復帰や社会復帰に向けた準備のための更なる医療的リハビリ、自立訓練施設での訓練などを行っております。高次脳機能障害は見えない障害と呼ばれますが、その見えない障害を更に軽減すること、当事者が障害に対して適応的な代償手段が使えるようになること、そして生活期や社会復帰後の障害軽減のための環境調整のための情報交換などを行うことなどを当センターの役割として行っております。

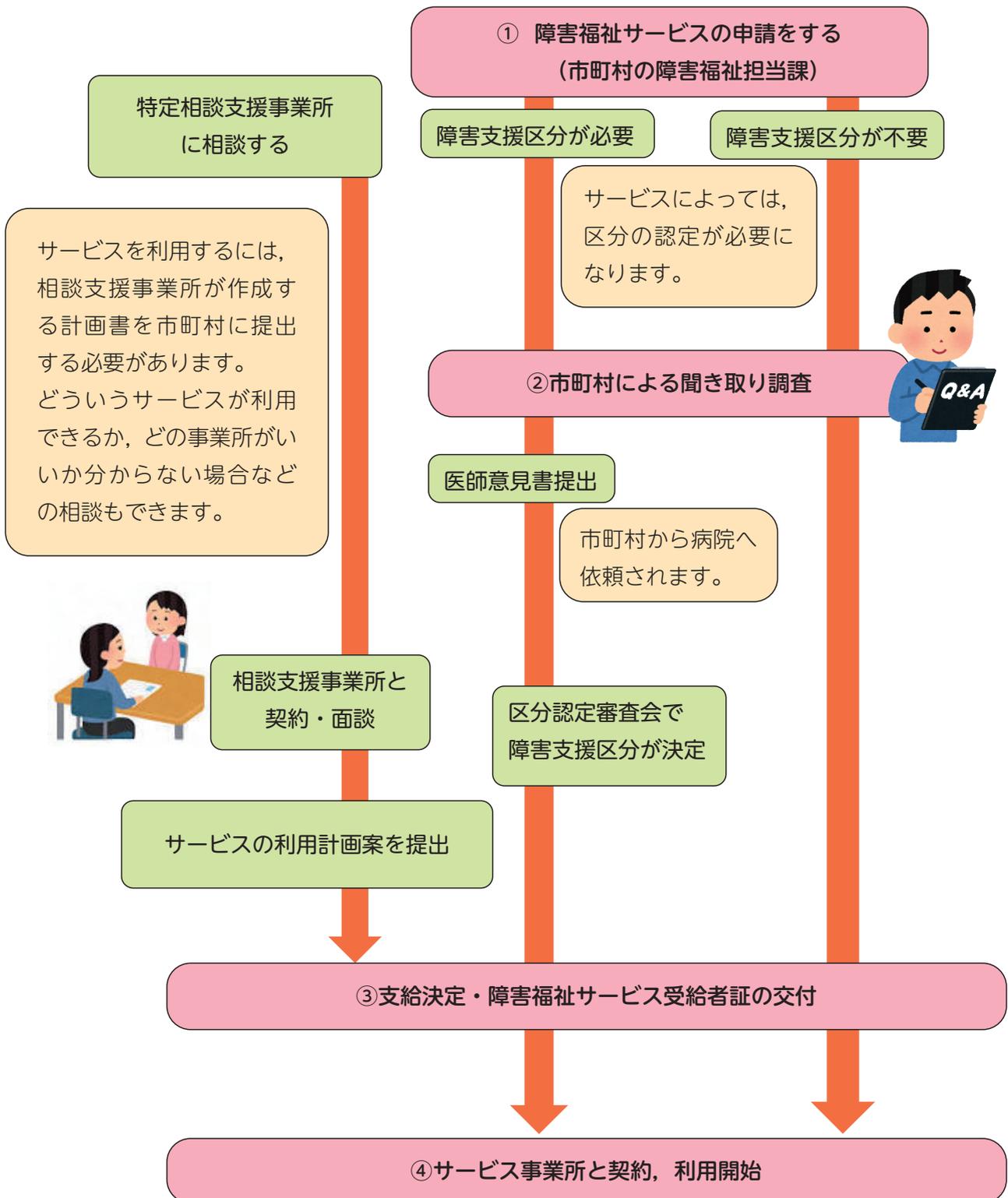
生活復帰後、社会復帰後も環境は逐一変化します。高次脳機能障害の方は環境変化に非常に弱く、環境変化によってできていたことも途端にできなくなることもしばしばです。そのため当センター外来で定期的な診察、リハビリでの聞き取り、生活指導なども継続的に行っております。ただ、当センターは地理的には不便な場所にあり、外来通院には患者さんには多くのご不便をかけています。生活期復帰後の高次脳機能障害の患者さんやそのご家族がいつでも相談できる医療機関や福祉的な拠点が各地域にできることが理想であり、今後の目指すところであると考えております。

この度は開設して長期間経過いたしましたことを受け、改めて当センターをご紹介させていただく事で冒頭の挨拶に代えさせていただきます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

# 障害福祉サービス利用について

事故や病気で入院した後、多くの方が福祉サービスを利用されることとなります。原因となった疾患や年齢、目的に応じて利用できる制度、サービスがあります。今回は障害福祉サービスについて紹介します。

## 障害福祉サービス利用申請の流れ



## 主な障害福祉サービス

### 介護等給付～日常生活に必要な介護にまつわる支援を提供

居宅介護 (ホームヘルプサービス)	障害により介護が必要な人の自宅に出向いて提供されるサービス。入浴や食事などの介護を行う「身体介護」や「家事援助」など
重度訪問介護	体が不自由で常に介護を必要とする人の自宅や入院先で、身体介護や家事援助などを提供
同行援護	視覚障害により移動が難しい人に、外出時の動向や代筆、代読などを行う
行動援護	知的障害や精神障害で行動の際に介護が必要な人に、行動に伴う危険を回避するための援護を行う
重度障害者包括等支援	重度の障害があり多くの種類の支援が必要な人に、包括的にサービスを提供
短期入所 (ショートステイ)	普段介護を行っている人が一時的に介護できないときや休息をとる場合に、介護を必要とする人に対し一時的に施設において介護や支援を行う
療養介護	医療機関に入院してもらい、医療的ケアや日常生活の介護を提供
生活介護	常に介護を必要とする人に、日中、日常生活上の支援を受けるほか、創作的活動や生産活動を行う
施設入所支援	施設に入所している人に、夜間や休日に入浴や排せつ、食事などの日常生活の介助などを行う

### 訓練等給付～社会生活に必要なスキルを身につける訓練の提供や、自立した生活を送れるようサポートするサービス

自立訓練	地域で生活するために必要な体の機能や生活能力の維持・向上を目的として行われる訓練。身体障害のある人に対してリハビリテーションなどを行う「機能訓練」と、知的障害や精神障害のある人に対して食事や家事などの訓練を行う「生活訓練」がある
就労移行支援	一般企業での就労を目指す人に対し、働くために必要な知識や能力を身につけるための職業訓練や就職活動のサポートに加え、就職後に長く働けるように職場定着のための支援を提供するサービス
就労継続支援	一般企業での就労は難しいものの、支援があれば働くことができる人に、働く場と、知識や能力向上のための訓練を提供するサービス。雇用契約を結んで働くA型(雇用型)と、契約を結ばずに働くB型(非雇用型)の2種類がある
就労定着支援	就労移行支援などを経て就職した人が就労により直面する困りごとに対する支援を行うサービス
自立生活援助	支援施設や医療機関を出て一人暮らしをする人の自宅を定期訪問して支援するサービス
共同生活援助 (グループホーム)	世話人の支援を受けながら生活する住居である「グループホーム」で暮らす人に対し、支援を提供するサービス

## 相談支援事業所について

障害を持つ方を支援する福祉サービスは多岐にわたり、複雑です。そのサービスをうまく利用するお手伝い(相談支援)をしているのが「相談支援事業所」です。「特定相談支援事業所」は右図のサービス等利用計画案作成を行い、サービス事業所との調整やモニタリングなどによるサービス利用継続の支援を行っています。その他、障害者の地域生活の支援や一般的な相談に対応する「一般相談支援事業所」、障害児を対象とする「障害児相談支援事業所」など、役割に応じて相談支援事業所があります。また障害のある方の総合的な相談拠点として、地域ごとに「基幹相談支援センター」が設置されています。

## 介護保険との関係

介護保険対象となる方は、障害福祉と介護保険で同等のサービスがある場合、介護保険サービスの利用が優先となります(介護保険優先の原則)。40歳以上で脳血管障害の方、65歳以上の方などは市町担当課で障害福祉サービス利用が該当するか相談が必要な場合があります。

# 利用者のページ



○村田成康さんは、2017年に交通事故で受傷されました。当院での入院リハビリを経て、外来リハビリを継続し、広島県障害者職業センターさんの力も借りながら、現在は復職されています。今回は、受傷から現在まで、およそ4年間の月日を振り返って頂きました。

## ○受傷から現在を振り返って

長かったです。今でこそ復職していますが、ここまで全てが順調に進んでいったわけではありません。事故から1年経たないタイミングで1度復職したんですが、その時はうまくいかなかった。事前に会社との情報交換は済ませ、日常生活も問題なく送っていたので、特に心配はしていませんでした。むしろ、元の自分に早く戻りたい、早く元の生活を取り戻したい、自分は障害者じゃないみたいなのが焦りの方が強かった。仕事に戻ると、見た目は事故前の姿と変わらないので、「もつ元氣だね」。何も変わりないね」と皆が声をかけてくれます。最初はそれが嬉しかったのですが、次第に、その期待に応えないといけない、元の自分と同じ働きをしないといけないみたいなプレッシャーに変わっていききました。自分を虐めるように働きましたが、長くは続かず、心身のバランスを崩してしまいました。

再度休職した僕は、どうせ自分は障害者だからと

自暴自棄になり、自宅に引きこもるようになりました。とにかく、元の自分を知っている人に会いたくなかった。率先して参加していた地域の活動からも足が遠のきました。家から出ないといけないと頭ではわかっているも身体が動かない、そもそも外に出る切っ掛けもない、何をどうして良いか分からない、本当に辛い時期でした。そんな自分を見兼ねてか、古くからの先輩が日曜大工の仕事を振ってくれるようになりました。それをリハビリ出勤と勝手に位置づけ、日課として取り組み始めてみたところから、徐々に社会との接触も増えていったように思います。「ありがたう」と言われたり、褒められたりするとやっぱり嬉しいですね。

ここから、復職に向けた準備が再び始まります。県リハや会社の勧めで、職業センターを利用することになりました。早く戻らないといけないと思う一方で、もつ失敗できないという思いも有り、苦しかったです。ただ、「今は大きな休憩時間。休んで良いんだよ」とスタッフの方が言ってくれ、その言葉が自分をすこく楽にしてくれました。自分で自分にプレッシャーをかけ過ぎていました。そこからは、元の自分にこだわり過ぎず、今の自分がすべきことや出来ることに目が向き、復職に向けての準備に不安なく取り組めるようになりました。

1回目の失敗から1年経ち、2回目の復職に臨みました。1回目は、元のようにうまく仕事が出来ない自分に苦しみ、それでも自分で何とかしないといけないと独り相撲状態になっていましたが、2回目は、独りじゃないんだという安心感がありました。自分の努力ももちろん大事ですけど、それだけではうまくいかない。周囲の理解やサポートも必要なんだと改めて感じました。職業センターのスタッフも、

リハビリスタッフも、焦りやすく前のめりになりやすい僕の特徴を踏まえた上で、いつも客観的な視点から具体的なアドバイスをくれます。2回目の復職後も、大きな問題なく仕事を続けられているのは、本当に多くの方の支えが有ってこそだと思っています。

極端に疲れやすく、イライラしやすい僕の脳みそも、現在は自分の個性だと受け入れていています。覚えることや計画を立てることも苦手になっているので、リハビリでは、メモリーノートやメモ帳の使い方を繰り返しレクチャーしてもらいました。今では、それが僕の生活を支えるマストアイテムになっていて、究極のメモ魔を自称しています。事故に遭って、ハッピーとかさういつわけじゃないけど、こうして新しい自分に出会えたし、人生そのものを新しくしてくれたと思うようになっています。苦勞も有るけど、毎日が楽しい。リハビリにゴールはありません。むしろ、今スタートを切った感じです。

家族には本当に苦勞を掛けました。自分の事で一杯で、子どもや妻には寂しい思いや我慢をたくさんさせました。それでもずっと横に居てくれたことが本当に有難かった。これからは家族のことを第一に、そして、元に戻るのではなく、新しい人生と一緒に歩んでいければと思っています。

## ○リハビリスタッフより

上記の内容は、村田さんへインタビューを行い、それをスタッフがまとめたものです。今回の掲載に伴うインタビューに快く応じてくださったこと、そして、1つ1つの質問に誠意をもって答えてくださった村田さんに感謝致します。

## コラム

# 「コロナ禍でのリハビリテーション」

2019年末に中国が起源と言われる新型コロナウイルス感染症は、2020年に入ると瞬く間に日本を含めた世界中に拡大し、私たちの生活を一変させました。この2年間で、外出時のマスク着用や手指消毒の習慣は世間に定着し、感染拡大期には緊急事態宣言や蔓延防止措置などの行動制限が呼びかけられ、これまでにない事態への対応に誰もが戸惑い不安を感じてきたと思います。

特に2022年1月にやってきた第6波以降は、自身が感染した、濃厚接触者になったという話がとりわけ多く聞かれるようになりました。「感染が怖くて福祉サービスの利用を控えている」「通所先で感染者が出てしまい利用できない」など、これまで作ってきた生活リズムの変化を余儀なくされた方や、目指している次のステップに進むのをためらう方も少なくないように感じます。

当院では安全にリハビリが提供できるよう、感染状況に合わせた対策を実施しています。現在は消毒や換気、体温測定に加えて、外来・入院患者さんのリハビリ室を分ける、入院中の外出泊・面会の制限等の対応をさせていただいています。入院リハビリをされている患者さんにとって外出泊・面会の禁止はストレスになっており、そのストレスが場合によってはリハビリの阻害因子になってしまいう事例も散見され、感染対策とは言っても心が痛みます。通院・入院患者さんやご家族の皆様のご理解ご協力に心より感謝いたしております。

ソーシャルディスタンスが叫ばれますが、心の中では手を取り合い、ともにこの苦難を乗り越えていけたらと思います。



# 関係機関ニュース

## 研修情報

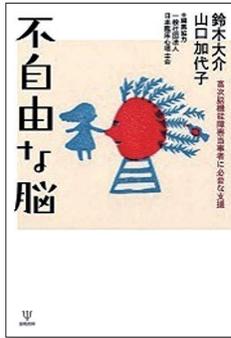
### 令和4年度高次脳機能障害研修のご案内

令和5年1月22日(日)に、オンラインにて開催します。

この研修会は、日本損害保険協会の助成を受け実施しています。今回は当事者の鈴木大介様、中央大学大学院・公認心理師の山口加代子先生の対談の予定です。また、対談後には支援者、山口先生の鼎談もあります。

高次脳機能障害は外見からは症状が分かりづらく、周囲から誤解を受けやすい面があります。この研修を通じて、高次脳機能障害について一人でも多くの方に理解していただき、支援を考える機会になればと思います。参加料は無料です。

## 関連本



## 「不自由な脳」

高次脳機能障害当事者に必要な支援

編集協力：日本臨床心理士会

鈴木大介様、山口加代子先生の対談が書籍化されています。

## 家族会情報

### 家族会のご案内

当センターにて、患者様のご家族主催の家族会が開催されています。日頃の思いや悩みを語り合うことで、少し気持ちが楽になるかもしれません。また、ご家族ならではのアドバイスもいただけますよ。

家族会「シエイキングハンズ」

第1火曜 13時半〜

家族会「ケセラセラ」

第1金曜 11時〜



## 家族会情報

### 日本高次脳機能障害友の会全国大会

『2021年日本高次脳機能障害友の会全国大会』が、令和3年10月2日、オンラインで開催されました。

令和4年度の開催時期については、日本高次脳機能障害友の会のホームページをご確認ください。

## 勉強会

### 令和4年度高次脳機能障害家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族、高次脳機能障害に関心をお持ちの方を対象に学習会を開催しています。

今年度より、会場の他、オンライン(Zoom)でも配信することになりました。

日時：第1金曜・第3火曜 14:15〜14:55

場所：広島県立障害者リハビリテーションセンター(2階の高次脳機能科受付で案内します)

対面及びZoom配信のハイブリッド式

内容：月ごとに、①「脳損傷とその後遺症について」②「リハビリテーションと本人への関わり方について」③「福祉制度について」という内容を扱っています。①は4

月・7月・10月・1月に、②は5月・8月・11月・2月に、③は6月・9月・12月・3月に実施予定です。

\*参加を希望される方は、高次脳機能センターにお問い合わせください。申し込みについてご案内します。(ホームページにも掲載しています)

新型コロナウイルス感染症の流行状況により、会場参加は中止になる場合があります。

最新情報については、ホームページにて確認をお願いいたします。

## 施設紹介

### スポーツ交流センター・おりづる

スポーツ交流センター・おりづるは、障がいのある人もない人も、ともに生活し活動できる社会を目指して、社会参加促進事業やリハビリテーションを行っています。障がいのある人の生きがい作りを支援するため、社会参加並びに相談に至るまでの総合福祉サービスを提供するとともに、すべての県民が気軽に交流できる場として事業展開をしています。

#### 主催教室・相談事業

楽しみながらリハビリや健康増進ができるよう、様々な内容の教室を開催しています。令和4年度は内容を一新し、親子で参加できる教室や体験型教室を多く取り入れ、初めての方でも参加しやすい内容となっています。

この他、職員が福祉施設に出向いて教室を実施する地域派遣事業や、障がい者支援事業所に出向き、機能維持や二次障がい予防等の相談に応じ、助言・指導を行う巡回相談等の相談事業も実施し、県内各地にスポーツ交流センターのサービスを提供しています。

#### 施設概要

- アリーナ：各種スポーツを行うことができます。用具の貸し出しも行っていきます。
- プール：日本水泳連盟公認25mプールに流水プールを併設しています。水温は32℃前後に保たれています。
- トレーニング室：各種トレーニングマシンを設置しています。トレーニングメニューの作成も行っています。
- 卓球室：反射音を少なくする吸音材を使用しています。卓球マシンでの練習やサウンドテーブルテニスを行うこともできます。



○会議室：会議や講習会等で利用することができます。  
○調理実習室：サークル活動や少人数での会議等で利用することができます。（※感染症対策のため、現在、調理・食事での利用を中止しています。）  
○モデルルーム：使いやすい建具、生活用具等の展示・実体験を行うことができます。福祉用具の貸し出しも行っています。

#### コロナ禍の活動

昨年度、広島県の「新型コロナウイルスまん延防止等重点措置」により、度々臨時休館となったスポーツ交流センターでは、休館中でも、皆さまが自宅でもできる体操や、スポーツの楽しさをお伝えしたいという思いから、公式「Twitter」「YouTube」を開設し、情報発信を始めました。

Twitterでは、大会やイベント、教室等に関する最新情報をお届けしています。YouTubeでは、障がい者スポーツやレクリエーションスポーツに関する情報を、楽しみながらご覧いただけるよう、内容を工夫して情報発信しています。

現在、皆さまに気持ちよくご利用いただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策として、館内の定期的な消毒や換気を行い、利用人数を制限して開館しています。

興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ】

広島県立障害者リハビリテーションセンター  
スポーツ交流センター・おりづる  
〒739-0036 広島県東広島市西条町田口295-3  
Tel : 082-425-6800 Fax : 082-425-6789  
E-mail : oridsuru@hiroshima-wsc.jp  
URL : <https://www.rehab-hiroshima.org/orizuru/>  
公式 Twitter : <https://twitter.com/supokouoridsuru>  
公式 YouTube : [https://www.youtube.com/channel/UCrB1-gIGPRS\\_yAulhExV8gw](https://www.youtube.com/channel/UCrB1-gIGPRS_yAulhExV8gw)



## ホームページ ご活用ください！

「広島県立障害者リハビリテーションセンター」ホームページ (<https://www.rehab-hiroshima.org/>) から入り、「高次脳機能センター」をご覧ください。

☆「高次脳機能障害とは」「高次脳機能センターの役割」「診療・入院のご案内」「支援実績」等がご覧いただけます。

☆各種資料と研修会情報のページ  
各種資料、パンフレットも  
ご覧になれます



### ☆研修案内

トップページに最新情報を載せています。

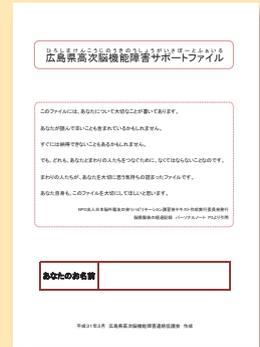
- ・家族セミナー（月2回実施）
- ・高次脳機能障害研修会（損保協会によるリハビリテーション講習会）（年1回）

☆「各施設広報誌」ページ  
機関紙「高次脳機能センターだより」  
バックナンバーをご覧になれます



### ☆その他

広島県高次脳機能障害  
サポートファイルの様式  
もご利用になれます。



## 表紙写真のエピソード

記憶障害の影響で、自分の事や家族の事を思い出すことができないAさん。入院当初は、何を聞いても「分からない」と俯ばかりでした。一方、Aさんは、歌手名や曲名は思い出せないものの、昭和歌謡や童謡を歌うことが出来ました。そこで、Aさんが好きだった歌手や青春時代の流行歌をご家族に教えて頂き、リハビリの中で一緒に聴いてみました。すると、どの曲も自然に歌うことが出来ます。懐かしそうで、どこか恥ずかしそうなAさん。「中学生の頃の曲だ」「若い頃は楽器もしていた」「懐かしい」といった言葉が聞かれることもあります。今日もAさんは、お気に入りの曲を口ずさみながら、リハビリに取り組まれています。

## 編集後記

コロナ禍となつて約3年目...。ウィズコロナでどのように生活の質を保つかがこれからの課題かもしれないと思う今日この頃です。いろいろな制限がある中、気持ちの前向きになれる工夫をしていかなければなりませんね。



### おんわり

原稿・写真については、ご本人の承諾を得て掲載します。

## 診療案内

### □ 診察の流れ

予約制になっております。予めお電話でご予約の上ご来院ください。

〔診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、〕  
可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。

#### ① 電話予約

082-425-1455（代表）高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～12:00

13:00～15:00

相談のみでもお受けします。コーディネーターが対応します。

#### ② 高次脳機能科・神経内科 外来診療

脳神経に関する専門医が診察します。

(R3.4.1～)

	月	火	水	木	金
9:00 } 12:00	近藤 大林	大林	近藤 大林	近藤 大林	大林 上村
13:00 } 13:30	近藤	(休診)	近藤	近藤	(休診)

#### ③入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。